令和7年(2025年)9月

町会及び地域コミュニティに関する調査 結果報告書



少子高齢化の進行に加え、単身世帯や共働き世帯が増えるなか、 人と人との距離のとり方も、それぞれの暮らしに合わせて多様になってきました。 地域と積極的に関わりたい人、無理のない範囲で活動に参加したい人、 町会活動に強い負担を感じる人。

年齢や仕事、家庭の状況によって、その意見はさまざまです。

そのようななかでも、防災や防犯、見守り、福祉、環境整備など、 地域を支えるしくみのすぐそばには、今も「町会」という存在があります。 それは暮らしのなかに自然に息づきながら、 世代を越えて人と人とのつながりを守り継いできました。

町会の意義や必要性についての感じ方は、人によって異なります。 人口減少や SNS の普及に伴い「地域」への捉え方は絶えず変化し続けています。 そのなかで、人と人とのつながりをどのように保ち、次世代へ受け継いでいくのか。 それこそが、いま私たちに問いかけられている課題といえるでしょう。

こうした現状を踏まえ、町会のいまを多角的に捉えるための調査を実施しました。 ひとつは、町会の皆様にご協力いただき、組織や活動の実態、課題をお伺いする調査。 もうひとつは、町会に未加入の方を対象に、未加入の理由や活動への印象、 参加しやすいと感じる仕組みについて意見を尋ねた意識調査です。 町会の"内側"と"外側"、その両方の声に耳を傾けること。 そこに地域とのつながりを見つめ直すための手がかりがあると考えました。

町会に所属している人も、そうでない人も。 地域と積極的に関わっている人も、少し距離をおいて暮らしている人も。 それぞれの立場から見つめ直すことで、地域コミュニティがもつ意義を あらためて感じ取ることができるかもしれません。

なお、本報告書に掲載している自由記述欄のご意見は、 誤字や脱字などの明らかな誤りを除き、回答者の記述をそのまま掲載しています。 そのため、一部には感情のこもった表現や強い言い回しが含まれていますが、 これは現場の実情を如実に示す生の感覚であり、調査の意義を深める重要な情報です。 皆様においては、こうした趣旨をご理解のうえ、ご覧くださいますようお願いいたします。

結びになりますが、本報告書の作成にあたり、 調査に快くご協力いただきました皆様に対し厚くお礼を申し上げます。

目 次

第1部 単位町会現況調査(町会あてアンケート)

調査の	概要		1
第1章			2 3
第2章	(4) 町会で使用できる会館・集会(5) 主な情報共有手段		4 5 7 8 9
第3章	(2) 役員の選出方法(3) 役員の年齢構成と性別構成		11 11 12 13
第4章	町会の活動内容 (1) 実施している活動・行事 … (2) 地域住民の参加意識		14 20
第5章	(2) 市に期待する支援		21 22 25
第6章	(1) 会費 ···································		27 27 28
第7章	(2) 外国籍の住民が参加すること (3) 外国籍の住民が参加しやすい	だについて	30 30 30 31
第8章	(2) 町会運営のあり方		32 33 35

第2部	地域コミュニティ	に関するアンケー	ト(町会未加入向け)
-----	----------	----------	------------

調査の	既要 …		37
第1章	回答者 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7)	番の情報 低回収率が示唆する町会との心理的距離 住所分布 年代分布 性別分布 世帯構成 住居状況及び居住年数 就業状況	38 39 39 40 40
第2章	町会^ (1) (2)	の未加入理由 町会に加入しない理由 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	43 46
第3章	町会記 (1) (2) (3) (4)	活動や地域行事への印象・参加意識参加しづらいと感じる理由参加してもよいと思える活動参加しやすいと思う関わり方情報の受け取り方	47 48 49 50
第4章	地域と (1) (2) (3) (4) (5) (6)	近所づきあいに対する気持ち	51 52 53 56 58 60
第3	8部	2つの声からみえてきたもの~アンケートのまとめ~	
	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7)	加入しない理由と加入者の推測の照合 町会の必要性に対する認識の差 人間関係や煩わしさの捉え方 金銭的負担・時間的負担に対する意識 情報伝達・周知の在り方 町会運営のあり方 2つの声からみえてきた「コミュニティに求められるもの」	61 62 63 64 65 66